

# 各種データに基づく出荷予測・計画安定出荷体制の構築によるスマート営農 体系の確立(伊勢市・志摩市・玉城町・南伊勢町)

露地野菜(青ねぎ)

実施主体：伊勢の青ねぎスマート栽培推進協議会 取組期間：令和2年～ キーワード：営農管理ツール、出荷予測

## 1 産地の概要

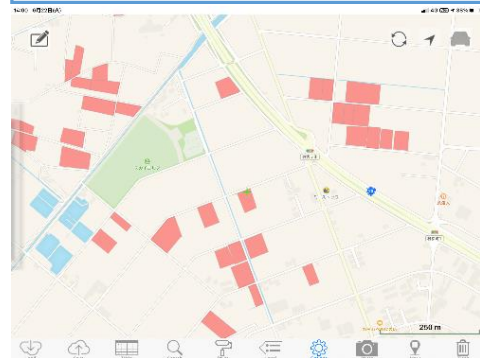
<産地の現状・課題>

- ・伊勢志摩地域では、温暖な気候を活かした青ねぎの周年露地栽培が行われている。平成23年の共同選果場の整備等により栽培面積が拡大し、作付け地域も拡大している。
- ・計画的な販売と単価の維持のため、市場へのお荷物見込みの情報提供や、防風・湿害対策等の安定出荷対策を講じている。
- ・近年、想定外の気候変動により、出荷時期・量の予測が困難な状況となっている。
- ・現在、ほ場巡回により産地全体の作付状況を把握し、出荷予測を行っているが、作付状況の把握の効率化と出荷予測の精度向上が必要である。

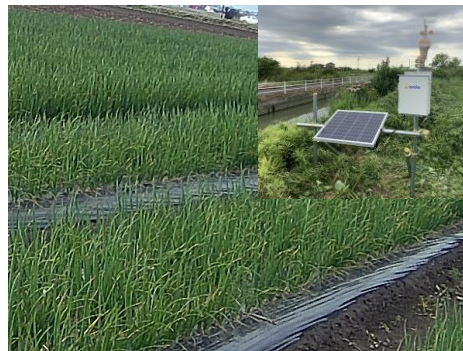
## 2 取組体制

<構成員と役割>

- ・生産者(役割:作付・出荷状況の報告)
- ・JA伊勢(役割:作付・出荷状況集約と把握、出荷予測の試行)
- ・伊勢志摩地域農業改良普及センター(役割:出荷予測支援、技術支援)
- ・中央農業改良普及センター(役割:各種助言及び情報提供)
- ・農業研究所(役割:各種助言及び情報提供)



営農管理ツールのほ場マップ

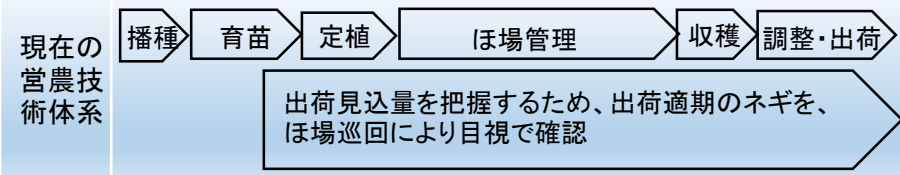


気象観測センサーの設置

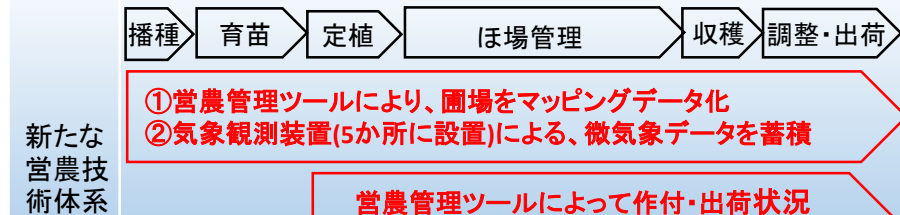
## 3 新たな営農技術体系の確立に向けて

<目指す産地像>

営農管理ツールにより、産地全体の作付状況(定植日、面積、収穫日)を把握し、気象観測データとともに蓄積することで、作付状況把握の効率化と出荷量予測の精度向上を図っている産地



- ①営農管理ツールの導入
- ②気象観測装置の導入



- ①営農管理ツールにより、圃場をマッピングデータ化
- ②気象観測装置(5か所に設置)による、微気象データを蓄積

営農管理ツールによって作付・出荷状況を把握するとともに、気象データを活用し、出荷量予測の精度向上を図る

<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- ・営農管理ツールの活用で**全ほ場(277筆)の位置図をマッピング、15ほ場で作付状況をデータ化・蓄積**  
目視による出荷見込みの確認⇒**作付状況の把握の効率化が可能**
- ・気象観測装置により、**5か所で微気象観測データを蓄積**  
⇒作付状況データと組み合わせ、出荷予測の精度向上につながる可能性